第１回あかいわ創生有識者会議　会議録（要旨）

日時：平成２７年７月２１日（火）午後３時開会 午後５時閉会
場所：赤磐市役所２階大会議室

１　開会
略

２　市長あいさつ
皆さんこんにちは。皆様御多忙のところ、本日、第１回あかいわ創生有識者会議に御出席いただきありがとうございます。
この赤磐市を魅力のある素晴らしいまちにして、子どもや孫に引き継いでいくことは私たちの責任であります。
国は、まち・ひと・しごと創生、地方創生を進めるなかで、有識者会議の設置を地方自治体に対して求めているところですが、赤磐市は、国に言われたからこの会議を設置するという考えではございません。赤磐市の課題や今までできていなかったこと、そしてこれから先どういった施策が求められているのか等について、いろいろご意見をいただける良い機会だと捉えています。
この有識者会議は、今後の赤磐市の方向性を定める重要な会議です。赤磐市の未来に向けて自由なご意見をいただき、幅広い議論を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

３　委嘱状交付
略

４　会長及び副会長選任
事務局：　あかいわ創生有識者会議設置要綱第２条第４項に基づき、会長の選出に移りたいと思います。
会長及び副会長の選出につきましては、あかいわ創生有識者会議設置要綱第２条第４項及び５項に、「会長は、委員の互選により定める。」、「副会長は、会長の指名により定める。」と規定されていますので、委員の皆さまに会長の選出をお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願いします。
委　員：　事務局の提案を求めます。
事務局：　それでは、事務局から提案させていただきます。会長についてですが、現在、赤磐市では、人口減少問題に対応することを目的に、市全体の振興を図り、市を持続的に発展させるための「第２次赤磐市総合計画」を策定中です。この「第２次赤磐市総合計画」は、市の最上位計画に位置するものであり、本会議の目的のひとつで

ある総合戦略の策定に当たりましても十分に勘案する必要があります。そこで、この計画を審議する「赤磐市まちづくり審議会」の会長を現在務めていただいている、岡山商科大学大学院教授 佐藤豊信委員にお願いしたいと考えますがいかがでしょうか。以上について、賛成いただける場合は拍手をお願いします。

委　員：(拍手)

事務局：　それでは、会長になられました　佐藤委員、「あかいわ創生有識者会議設置要綱」第２条第５項の規定により、副会長の指名をお願いたします。

会　長：　この有識者会議で意見交換をする総合戦略については、その内容が第２次赤磐市総合計画と大きく関連すると思いますので、赤磐市まちづくり審議会で副会長を務めていただいております、島津義昭委員にお願いしたいと思います。

事務局：　会長に佐藤委員、副会長に島津委員が選出されました。以後よろしくお願いいたします。会長、副会長に一言お言葉をいただけたらと存じます。

（会長・副会長あいさつ）

会　長：　先ほど事務局からも話がありましたが、この有識者会議は、国が進めようとしているまち・ひと・しごと創生と連動しています。国としては、人口が急速に減少し、人口構成も少子・高齢化する中で、生活環境面をつくる「まち」、人口を増やす「ひと」、経済的な面の「しごと」の政策により日本の経済成長を達成させる。こういうことだと思います。

経済成長の主要なファクターに資本、技術進歩、労働力の３つがあります。

資本については、日本の財政赤字は約１千兆円と膨大ですが、国民の貯蓄が約１千５百兆円あるため何とかもっているという状況です。しかし、これも人口が減少してくると持たなくなってきます。このことは、技術革新のための投資がどのくらいできるのかということにもつながります。

労働力では、人口、特に若年層が減ってきています。このことにも、経済的な要因が大きく関係しています。現在、日本の３６歳の既婚率は、正社員で６０%弱、非正規雇用では２０%弱、アルバイトだと数%程度です。

一方、結婚希望のアンケート結果によると、９割の人が結婚したいと希望しており、このギャップには、若者の経済的な安定が大きく関わっているものと思いますので、この有識者会議でも、経済のことは重要な点になるだろうと思います。

今、この地方創生は全国の市町村で行われようとしています。その中で違いを出して赤磐市の優位性を見いだせる成長戦略を描けなければ、相対的にみて日本全国の人口減少に合わせて赤磐市も同じ道をたどることになります。

赤磐市が頭一つ抜けるためには、赤磐市に住んでみたい、赤磐市で働きたいと思われるものを出していかなければならないと考えています。

皆様には、そういった赤磐市独自のプランができるように、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

副会長：　会長を支え、補佐していきたいと思います。よろしくお願いします。

5　地方創生に関する趣旨説明

事務局：　（資料１の説明）

以上の対応方針に沿って、今後進めてまいりたいと思いますが、何か御意見・御質問はあるでしょうか。

委　員：（意見特になし）

6　意見交換

（1）赤磐市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（素案）について

事務局：（資料２の説明）

会　長：　ありがとうございます。資料の内容は、ほぼ予想どおり、社会増減、自然増減ともに今後は減少していくことが予測されているわけですが、ただいまの説明に対して、質問、意見がありましたらよろしくお願いします。

市　長：　少し補足をいたします。資料２では、人口減少に関して統計的なものをお示ししたわけですが、７ページで赤磐市の合計特殊出生率が１．３７と岡山県平均からすると下回っていることを説明しています。

また、９ページの転入転出のバランスを見ますと、１０～１９歳、２０～２９歳の転出が目立っており、０～９歳、３０～３９歳の親子だと考えられる転入が目立っています。

１４、１５ページでは、岡山市へ通勤・通学している人が多いことが分かります。以上のことを総合的に考えたときに、「岡山市に勤務している赤磐市在住者が結婚を機に岡山市に転出していき、岡山市内で出産後、子どもの就学を機に赤磐市に戻ってくる」、そういった人口移動が多いという推測が成り立つのではないかと考えています。

今後は、この辺りのデータを集めて、推測が裏付けられるかどうか分析を進めていこうと考えています。

このような人口移動は、赤磐市に特徴的な現象だと思いますので、今後どのような対策をとるべきか、総合戦略の中で明らかにしていきたいと考えています。このことを委員の皆様と共有したいと思い、補足をさせていただきます。

会　長：　ありがとうございます。人口が減る要因は何なのか、そして減る要因のうち政策変数として動かせるものにはどういったものがあるのか、ということが明らかになれば、施策として総合戦略で出していくことができるのではないかと思います。

会　長：　その他、何かご意見等があればよろしくお願いします。

（特に意見なし）

（2）赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について

事務局：（資料３の説明）

会　長：　内容を見ていただいて、各委員からご意見を伺いたいと思います。

会　長：　基本目標①の中に、「企業誘致による安定的で良質な雇用の確保」という項目があ

り、「新たな企業用地の確保」という方向性が示されています。企業用地の確保も大事なことですが、その前にするべきことがあるように思います。たとえば、既にある地場産業がより成長していくために、地域の企業がどういう問題を抱えていて、どういう政策を希望しているのか、まずそこを固める必要があるのではないかと考えます。

また、企業誘致を進める際も、どういった企業を誘致すれば地場産業を含め地域全体として伸びていけるのかということを考える必要があると思います。

その他、商工業・観光振興では、商工業の振興のために解決すべき課題は何なのか、観光振興では、戦略的に使える観光資源は何なのか、その観光資源をどのように使っていくのか、そういったことを考えていく必要があると思います。

委　員：　私の周りで最近起きた２つのことですが、赤磐市出身で、故郷に帰って就職したいという●●（一部上場企業の研究開発機関）に勤めていた３０歳の男性がいまして、その方は、その気があればそのまま●●で縦横無尽に働けたであろう優秀な方なのですが、赤磐市に帰りたい理由を尋ねると親の面倒を見たいということでした。そういう能力のある方が、赤磐市に帰ってこようと思った生き方があるということは、転入を考える際のひとつの切り口になるのではないかと思います。

現在、わが社では、兵庫県豊岡市でしいたけを栽培して神戸の市場に出しているのですが、そこの市場関係者と話した際に、もっとしいたけをつくってほしい、ただし豊岡ではなくこの地でつくってほしいという要望を受けました。なぜかというと、流通インフラが広島 - 山陽 - 神戸のラインだと整っているということが理由でした。

赤磐市の強みは農業だと思いますし、農業を強くすることが必要だと思いますが、農業をする人が減ってきて厳しい状況です。農業をするより岡山市に働きに出たほうが生活も安定するといったことも農業従事者が減っている理由の一つであると思います。

全国を見ると農業で成功している人は沢山いますが、農業従事者全体でみるとごく一部です。農業でどういうビジネスモデルを構築するのかが大切なことだと思います。

たとえば、米専業農家の年間の労働時間は５００時間程度だと思いますので、米づくりだけ行うビジネスモデルをつくったのでは、ビジネスにならないと思います。米、黄ニラ、ぶどう、桃などいろいろな種類のものをつくって、年間２，０００時間程度の労働ができるようなビジネスモデルをつくることが大切なことだと思いますので、こういったことに対して支援活動をしていくことが重要ではないかと思います。

会　長：　ありがとうございます。重要なポイントだと思います。現在あるものをどうレベルアップするかということが必要かと思います。

例を挙げますと、山口県萩市において、それまで安く売られていた剣先いかを技術開発等によって生きたまま流通・販売するビジネスモデルをつくり、ブランド化

に成功した例があります。

今ある産業のビジネスモデルをどう再生させるのか、活性化させるのか、そこの視点をまず考えないといけないと思います。それをやらずに、企業誘致ばかりが地方創生の中で出てくることは避けなければならないと思います。

赤磐市は、人口が比較的多いにもかかわらず、製造品出荷額が県内で低い状況にあります。そのあたりもどうやって改善するのか考える必要があると思います。

熊山地域に航空機用ガスタービンの表面加工などを行っている㈱放電精密加工研究所という企業がありますが、こういった企業は、説明如何では若者の興味を引く事業内容だと思いますし、赤磐市にはこういった企業があるというＰＲをすることによって、若者が地域に残ると思います。

今までのやり方をどう改善し、赤磐方式のビジネスモデルを作り上げていくか、そこのところを検討していただきたいと思います。

委　員：　現段階の総合戦略だと、「赤磐ならでは」の部分がまだ弱いように感じます。

岡山県下を見たときに、これだけ大きな住宅団地が２つもある市町村はおそらく赤磐市だけではないかと思います。この２つの大型住宅団地とそこに住んでいる方々を大きな財産として、先程の話にもあった農業という視点で新しいコミュニティビジネスを起こす、あるいは産業面での振興を図る、そういったところを強く押し出していくことで、全国的な競争にも勝つことができるものと思います。

また、１．５次産業にしても、コミュニティにしてもそれをどう進めていくかというと、やはり、商工会とか他の産業支援組織と連携しながら、市を挙げて雰囲気づくりをしていかなければなかなか前に進まないと思いますので、市の職員が旗振りをしていかなければならないと思います。

そのためには、これから４０～５０年先の赤磐市の産業振興を生涯の仕事・ライフワークとしてやっていける人を市の中（職員）にも育成すべきだと思いますし、あるいはそういう組織をつくるのも必要になってくるかと思います。

委　員：　市内の企業がどういった発展計画を持っているのか、その辺を調査していただきたいと思います。

観光振興についてある会社の社長と話したところ、その方は、岡山空港に降り立った観光客にどうやって一番に赤磐市に来てもらうかということを考える中で、赤磐市へのアクセスが十分ではないと感じておられました。観光振興のためには、そういった道路事情等のアクセスについても良くしていく必要があるのではないかという思いがその方にあったということをお伝えします。

委　員：　人口が減る中で、農業の担い手をどう確保していくのかということが大きな課題になると思います。

赤磐市内にある農業大学校の生徒の約半数が非農家出身であり、農業をやりたいが基盤がないという課題もある中で、農業生産法人への就職という形での就農がふえています。

こういう状況の中で、「赤磐市ならでは」の具体的な担い手確保対策を考えてもら

えればと思います。

また、ブランド化、６次産業化といったことについても、まず、人口が減っていく中で赤磐の農地をどういったふうに守っていくのか、担い手をどう確保し育成していくのかというところが課題になると思います。

委　員：　今日の会議の資料は市民の方にもしっかりと情報提供していかれると思いますが、市民もしっかりと危機意識を持って取り組んでいただきたいと思います。

赤磐市として産業を振興していく、特に農業を強くしていくというプログラムは近隣の市ではあまり見られないので、これを赤磐市の特徴として推し進めていくことが必要だと思います。

高校や大学等への進学で市から出ていくことはやむを得ないことだとは思いますが、卒業後は赤磐に帰ってきてもらう、このための取り組みが重要だと思います。そのために、岡山県内の大学となにかコラボできることがあっても良いかと思います。

また、こういった取り組みは市単独でやるとなると難しい部分も出てくると思うので、周辺の市町とうまく連携してやっていただければと思います。

委　員：　５年間で取り組んでいく計画を決めるわけですが、はたしてこれを誰がやるのかといったことを思うところがあります。協働ということがベースになると思うのですが、たとえば、強い農業をやろうとしたときに、赤磐の農業のことをどうやって子どもたちに教えるのかといった教育との関係も出てくると思います。行政の中での役割、いろいろな団体や企業の役割といったことを考えた綿密な計画を練らないと５年間での達成は難しいと思うので、そこが不安に感じる部分です。

子育ての分野のことでいえば、市の職員は３年くらいで異動するため、子どものことに関するスペシャリストがいないことが問題だと感じています。熱心な職員がいても、異動があるとそれまでやってきたことが白紙になってしまったという経験もあります。

委　員：　教育の立場から考えると、大学で市外に出ても、将来はふるさとの赤磐市に帰ってくる、そういった心を持った子どもたちを学校教育の中で育てていかなければいけないと思います。

そのためにも、赤磐市民が、赤磐はいいところだと思えるような施策ができれば良いと思います。

また、赤磐市の良いところのＰＲが欠けているとも思います。

委　員：　赤磐市から岡山市に働きに出ている人は何割ぐらいいますか。

事務局：　赤磐市から岡山市への通勤・通学者をあわせると、約８，５００人、全人口の比率でいくと、２０％程度、１５歳～６４歳の比率でいくと、３６％程度です。

委　員：　今聞いた数字からも、赤磐市は岡山市の都市圏に溶け込んでいるということは事実だと思います。これから赤磐市の戦略を策定していくわけですが、岡山市との連携という視点は欠かせないのではないかと思います。

また、私の印象ですが、特にここ１０年で山陽地域が栄えて、熊山、吉井地域が

衰退してきていると感じています。人が集まるところが栄えるのは常ですが、赤磐市の場合、極端に現象として表れていて、このままだとこの現象はますます顕著になっていくものと思われます。

このことへの手立ての一つとして、赤磐市でも現在是里地区で活動されている地域おこし協力隊の活用が考えられると思います。

こういった、外部からの知恵を活用し、地域の人材をつくる、組織をつくることが必要ではないかと思います。

現在も、赤磐市は協働の推進や人材の輩出をやっていると思いますが、今後は、モデル地区のようなものをつくって地域と行政が協力してまちづくりをしていく、そういうことをやりながらさらに輪を広げていくことで、協働のまちづくり日本一と自慢できるような市にすることもできるのではないかと思います。

委　員：　企業誘致と地場企業の発展が重要になってくると思います。

県外の大学に出た人が将来戻ってくるのかということについては、非常に不透明な部分が多いですが、赤磐市にも技術を持った企業は沢山あるので、そういった人を引き戻すには、この企業ではこういった技術を開発しているんだとか、そういった魅力をＰＲしていくことが大事になってくると思います。

優秀な人材の確保は企業の成長にもつながるので、大学生を中心にした就職説明会など、地場企業がＰＲできる場を設けていくことが必要ではないかと思います。

また、東京、大阪、京都の大学にも多く進学しているので、そういった大学にもアプローチしていく手段を講じていくことが大切だと思います。

企業誘致に関しては、山陽ＩＣの近くが有効に活用できるのではないかと思います。総社市では企業誘致が進んでいますが、総社ＩＣと山陽ＩＣを比べたときに、まったく利便性は違わないと思いますので、赤磐市でも、企業誘致による雇用の創出、新しい産業の創出ということが十分可能だと思います。

まちづくりに関しても、非常に重要なことだと思います。若い人が生活する上で、出かけられる、食べられる、見られるような、遊びの場所があれば良いのではないかと思います。

たとえば、ネオポリス中央のショッピングを活用して、大学生が展示会を開くとか、何か目新しいものを売ってみるとか、あれだけの敷地があるので文化の拠点のようなところになれば良いと思います。

委　員：　企業誘致に関して、山陽ＩＣがあるのは赤磐の強みだと思います。ＩＣ周辺にはあいている土地も多くありますので、これを有効活用ができないのかなという風に思います。市内の他の地域の工業団地は既にほとんど埋まっている中、土地が多くあいているＩＣ周辺の土地への立地が進んでいないのは、農地が多いのかとは思いますが、どうしてこうゆう状況になったのかというところは率直な感想です。

観光面では、桃の花の開花時期に細い道を観光バスなどが通っているのを見かけますが、道が狭く駐車スペースもないので、こういったインフラの整備にも早く着手していかなければならないと思います。

農業従事者の所得の向上については、ある農家から聞いた一例ではありますが、ＪＡへの出荷だけでは採算が厳しいという声を聞きました。直接販売して高い利幅が得られるようにする支援、法人化への支援などをやっていけば農業で食べていけることが可能になるのではないかと思います。

北海道の夕張市が財政破たんしたことは記憶に新しいところですが、市の再生に向けて策定されたマスタープランの中で掲げられたのがコンパクトシティの形成だったと思います。

赤磐市でも、外からの移住に加えて、人口が減少する地域から市中心部への転居によるコンパクトシティの形成といったことも、検討する余地があるのではないかと思います。

また、これは蛇足ですが、赤磐市という名称をさいたま市のようにひらがなすると親しみがわくのではないかと思います。また、ひらがなにすることで子どもや外国人にも読めたり、知名度もいくらか上がったりするのではないかとも思いますので、検討の一つに加えていただければと思います。

委　員：　「お祭り文化の中で育つ子ども」という研究をしたのですが、１０数年前は土曜や日曜に親が子どもを連れて祭りに出たがらない状況にあったのが、４年前は親が積極的に参加し、また地域の人が温かく子どもを見守っていました。

故郷が大好きな子どもを育てていくことの大事さ、地域の教育力で親を育てていくことの大切さについて、地域との連携で考えていくことが必要だと思います。

副会長：　今回の地方創生の戦略は人口減少問題がテーマであり、幅が広く多様であるため、むしろ国がすることのほうが大きく、自治体がやれることはある程度限定されるかとも思いますが、会長が言われましたように、多くの市町村で同様の戦略がつくられています。

このような状況の中で戦略をつくるとなると、数は少なくても良いので、赤磐市として思い切ったことをやっていただきたいと思います。

たとえば、子育てだと、「結婚して子供ができたら赤磐市」といえるような、どこに住んでいても１０分以内に保育所に預けられて、２１時まで預かってもらえるとか、赤磐市がせめて県下で一番になるようなことを腹をくくってやらなければ、人口減少に対する施策の実効性を上げるのは難しいのではないかという気がしています。

また、合計特殊出生率が急に上昇することは現実的には難しいと思いますし、結婚する人の割合も急激に減っているので、自然増を期待することはなかなか難しいと思います。

そこで、今地域にいる人、例えば女性とか高齢者といった方の活用を考えていただければと思います。

現在、赤磐市は２０～３０％の方が就労していないという状況にあります。高齢者にはアクティブな方が沢山おられますし、なんとかこういう方が活躍できる支えあいのシステム、就労のシステムといったことを考えていただけたらと思います。

会　長：　ありがとうございます。大変貴重な意見が沢山出たと思います。

それでは時間も過ぎていますので、本日委員のみなさんから出た意見を整理して、修正した戦略の案を次回の会議で提案していただければと思います。

加えて、企業だけではなく、現場の意見も聞いていただいた上で戦略的に何が重要かということを判断いただき、政策を考えていただきたいと思います。

また、戦略をつくるだけではなく、それを活かしていくために、どのような人が中核となってどのような組織が担っていくのかということについても考えていただければと思います。

皆様から特にご意見がなければ、事務局に返したいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：　本日、事務局の席には各担当部局の者も出席しておりますので、ご質問などがありましたらお答えさせていただきます。何かございましたらよろしくお願いします。

（特に質問なし）

市内企業への聞き取り調査も準備しておりますので、次回の有識者会議では、それまでに聞き取りができた結果を御報告させていただきます。

次回の日程　平成２７年８月２６日（水）午前中